

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学校全体で見ると、基礎・基本の定着が徐々に図られてきている。しかし、教科によってはまだまだ十分とは言えない部分が見られる。今後は個に応じたきめ細やかな指導をより一層充実させていく。さらに、今年度同様、スタディタイム等で、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。
思考・判断・表現	今年度に引き続き、PBL型授業を全学級で実践するとともに、学校課題で情報を取捨選択したりまとめたりする力の系統表を作成し、全教育活動を通して学年に応じた「思考力・判断力・表現力」を身に付けられるように授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	「〇〇の勉強は好きですか」の肯定的回答が令和4年度よりも増加したが、教科や学年によっては昨年度結果や市平均を下回っているものもあるため、児童がより主体的に学習に取り組むことのできる授業改善・実践を行っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(国語及び算数の知識・理解)を上回る。	⇒ 業前活動において、週1~2回の「スタディタイム」の設定。また、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」と計算ドリルを併用することで、基礎・基本の定着に向けた反復・習熟を図る。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(国語・算数の思考・判断・表現)を上回る。	⇒ 学校課題研究でPBLを意識した授業改革に取り組む。自分で仮説を立て、オクリンク等の機能を用いて調査や検証、共有を行うことで、児童の思考力・表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査において、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校の結果(「〇〇の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答の割合)を上回る。	⇒ 学校課題を軸にしたPBLの実践を全学級1単元以上実施し、児童が主体的に課題と向き合い、取り組む場を多く設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語と算数の「知識・技能」について、8項目中6項目で昨年度の平均正答率を上回る結果で、目標の75%程度の達成度となった。毎週のスタディタイムで「ドリルパーク」や「スタディタイム」と計算ドリル等を併用して、基礎・基本が定着するよう反復・習熟を継続したことが結果につながったと考える。	B
思考・判断・表現	算数においては、昨年度よりも全学年で平均正答率が向上した。しかし、国語では、4年生が昨年度よりも向上、3年生が同等の結果となった。5、6年生では昨年度平均正答率よりも若干低い結果となった。PBL型授業の実践で、収集した資料を取捨選択したり、適切な成果物を作成したりすることで徐々に向上してきていると考える。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度と昨年度の「〇〇の勉強は好きですか」の結果を比較すると、22項目中16項目で昨年度よりも肯定的回答が増加し、75%程度の達成度となった。各クラスでPBL型授業を実践したことで、昨年度よりも児童がより主体的に学習に取り組むことができるようになってきたためだと考える。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	昨年度の自校の結果と比較すると、国語も算数も良好な結果となっている。しかし、国語において、問題に対して中程度量で示されている正しい解答を選択する部分で正答率が若干低い結果となっている。文章を正確に読み取る部分での課題が見られる。また、敬語に関する基礎知識の未定着も正答率や無解答率の数値から苦手意識がみられる。算数においても、基礎・基本を問われる問題での無解答率が多くみられることから、既習事項の定着に課題が見られる。
思考・判断・表現	国語においては、資料を読み取り分かったことを書く問題について無解答率が全国や県と比較しても2倍近く高くなっている。このことから、資料を読み取り分かったことを、中程度量の文章でまとめることに苦手意識の高さがうかがえる。算数においても、国語と同様、一定量以上の問題文や資料を読み取り解答を記述する問題の無解答率が高くなっている。国語も算数も分かったこと等を記述する問題に課題が見られることから、短文から中文程度で自分の考え等を記述する活動を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「国語/算数の勉強は大切だと思いますか」や「国語/算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」等の質問項目に対しては、9割以上の児童が肯定的回答をしているのに、「国語/算数の勉強は好きですか」の質問項目に対して、ともに肯定的回答が6割以下と低い結果となっている。学習の重要性は感じているものの、「好き」の意識が低いことから、児童主体の探究的な学びの実践をより重視して実践していく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	令和5年度の結果(平均正答率)において、令和4年度よりも算数は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに向上した。しかし、国語は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに減少もしくは同等の結果となった。国語においては、文章を正確に読み取る力を高める必要があると考える。算数においては、特に図形の定義や特徴に関する知識・理解の定着を図る必要がある。	小4	令和5年度の結果(平均正答率)において、国語の「思考・判断・表現」と算数の「知識・理解」「思考・判断・表現」では昨年度結果よりも向上した。しかし、国語の「知識・理解」に関しては、昨年度よりも減少した。算数において、表やグラフを正確に読み取る力が若干低くなっていることから、図表の見方等の確認をしていく必要があると考える。
小5	令和5年度の結果(平均正答率)において、国語の「知識・理解」と算数の「知識・理解」「思考・判断・表現」では昨年度結果よりも向上した。しかし、国語は「思考・判断・表現」で昨年度よりも低い結果となった。国語では中程度量の文章を適切に読み取ること、算数では文章題から立式したり数直線に表したりすることに課題がある。	小6	令和5年度の結果(平均正答率)において、令和4年度よりも算数は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに向上した。しかし、国語は「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに減少の結果となった。国語においては、漢字の定着や文の構成等について課題が見られるため、前学年までの学習内容の反復も効果的であると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【見沼小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	これまでの取組によって、基礎・基本は定着してきている。今年度さいたま市学習状況調査の同一集団や異集団経年比較でも、若干の増減はあるものの、昨年度結果よりも向上してきている部分が多い。しかし、学年や教科・領域によっては、漢字や四則計算等、定着しきっていない部分もあるため、今後もより児童の実態に合わせて授業実践を行っていく。さらに、さいたま市学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善に継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	学校課題研修で取り組んでいる「プログラミング教育」や「PBL授業」の実践によって、情報活用能力や発信方法も徐々にではあるが身に付けてきている段階である。今後、より児童の実態に合わせた実践を行っていく。学年にあった「思考力・判断力・表現力」を身に付けることができるように研修を進めていく。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 漢字の読み書きや加減乗除の計算等、基礎・基本の定着に課題がみられる。 【指導上の課題】 授業時間内だけでは、児童の反復・習熟の時間の十分な確保が難しい。	⇒ 基礎・基本の定着を図るために、業前活動において「スタディタイム」を設定し、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用したモジュール学習を行っていく【週に1～2回実施】。さらに、「漢字・計算ドリル」と「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を併用して家庭学習に取り組みるようにし、家庭でも基礎・基本の定着を図る【週に3回以上実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】 一定量以上の文章からの情報の読み取りやまとめ、発信をすること等に課題がみられる。 【指導上の課題】 児童が課題に対して必要感をもって活動することができるようするための支援が難しい。	⇒ 家庭学習等において、「ドリルパーク」を活用し、読むことや書くことへの苦手意識軽減を図る【週2回以上】。また、PBL授業やプログラミング教育内で、児童が主体的に学習課題に学びに向き合えるようにするとともに、情報のまとめ方や発信方法を身に付けられるような活動を取り入れる【R6さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で肯定的回答90%以上】。

⑤ 評価(※) 授業改善策の達成状況	
知識・技能	A 業前活動の「スタディタイム」において、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用したモジュール学習を計画的に実施できた。特に「ドリルパーク」のAIドリルを活用し、つまずきのみられる単元等の既習事項に関連する問題に再度取り組むことを積み重ねた結果、今年度さいたま市学習状況調査の平均正答率において、12項目中8項目で市平均よりもしくは同程度の結果となっている。さらに、学年によって差はあるものの、家庭学習においても「ドリルパーク」等を活用したことで、基礎・基本の定着に繋がっている。
思考・判断・表現	B 家庭学習において「ドリルパーク」を活用することで、読むことや書くことへの苦手意識の軽減を図ることが徐々にではあるができてきている状態である。今年度さいたま市学習状況調査の「読むこと」や「書くこと」の問題における平均正答率では、全学年市平均と同程度の結果であり、成果が出始めている。同一集団比較でも、両項目において、昨年度よりも学力が向上している傾向である。また、今年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、同一集団経年比較では昨年度よりも向上した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語・算数とも全体的にみると非常に良好な結果となっている。また、昨年度と比較すると、全体的な無解答率も低くなっていることから、日々の授業実践等の成果が表れてきていると考えられる。国語の漢字の書き取りや情報を基に解答を選択する問題においては、正答率が若干低くなっている。算数でも除数が小数の計算において、正答率が低くなっている。国語・算数ともに、概ね理解できている状況ではあるが、基礎・基本を問われる問題での誤答率や無解答率が目立つことから、既習事項の定着に課題がみられる。そのため、正しい知識・技能を身に付けることができるように指導を継続していく。
思考・判断・表現	国語・算数ともに、良好な結果である。昨年度より継続しているPBL授業の実践により、課題解決のために児童自ら考えながら取り組んできた成果であると考える。国語においては、文中の描写から心情や情景を捉える問題で正答率が低い結果となっており、「読むこと」に関して課題がみられる。算数においては、問題と既習事項を結び付けようとする変化を用いる問題での正答率の低さが目立つ。国語も算数も記述式解答への苦手意識がみられることから、授業の中で自分の考えや読み取ったこと等を書く活動を丁寧に行っていくようにする。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	各学年の各教科における「知識・技能」の平均正答率においては、良好な結果である。概ね、どの学年も学習内容が定着していると思われる。しかし、国語の漢字や主語と述語の関係における問題において、若干課題がみられる。漢字の正しい使い方や文中における単語の関係性の理解が不十分な面があると考えられる。算数の四則問題においても、正しく計算できなかったり、社会や理科の基礎・基本の問題でつまづいている部分もある。
思考・判断・表現	各学年の各教科における「思考・判断・表現」の平均正答率においては、概ね良好な結果とみることができる。異集団や同一集団における経年比較においても、多少の増減はみられるが、結果は良好といえる。しかし、理科の「エネルギー」を柱とする領域や「生命」を柱とする領域において、昨年度同様平均正答率が低い結果となっている。実験方法を検討したり、結果を基に考察したりすることに苦手な部分が見られた。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B 学校行事等の日課変更のため、「スタディタイム」を実施できなかったこともあったが、ほぼ計画通り、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用したモジュール学習を実施できた。ただし、「ドリルパーク」等を活用した家庭学習を出すことができない日もあったが、漢字ドリルや計算ドリルを中心として、学年の実態に合わせた学習を進めることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B 家庭学習における「ドリルパーク」等を活用した取組は週2回以上実施できなかったこともあったが、授業や業前活動等を活用して対応した。教科・領域による得手不得手はあるが、児童が学習課題に主体的に向き合ったり、自身で発信方法を選択したりできるような活動を学年の実態に合わせて取り組むことではできている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)